

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3228768号
(U3228768)

(45) 発行日 令和2年11月12日(2020.11.12)

(24) 登録日 令和2年10月21日(2020.10.21)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 5 C 11/34 (2006.01) A 4 5 C 11/34 1 0 3

評価書の請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 実願2020-2078 (U2020-2078)
(22) 出願日 令和2年6月2日(2020.6.2)(73) 実用新案権者 591287864
株式会社レイメイ藤井
東京都江東区森下1丁目2番9号
(74) 代理人 100093104
弁理士 船津 暢宏
(72) 考案者 石田 佳広
東京都江東区森下1丁目2番9号 株式会
社レイメイ藤井内

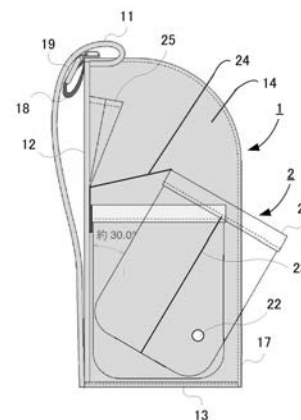
(54) 【考案の名称】 スタンド型ペンケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】ペンケースを開状態にすると、ペンスタンドを傾けることができ、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから簡単に取り出すことができるスタンド型ペンケースを提供する。

【解決手段】本体1の内部にペン等を収納するペンスタンド2を備え、スライドファスナーのスライダーを引手カバー19により動作させて、蓋部11を前面部17側で開状態にすると、ペンスタンドが、回転軸22を中心に回転し、垂直に立っている状態から前面に向けて斜めに傾き、ストッパーベルト24によって傾きを停止させる。筆記具等を使用する場合は、蓋部を開状態にし、ペンスタンドを手前側に傾けて、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけて斜めから容易に取り出すことができる。

【選択図】 図6



【図6】 本ペンケースの蓋部を開いた状態の左側面図

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

スタンド型ペンケースであって、
蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、
前記ペンスタンドが、前記蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾けられる機構を備えることを特徴とするスタンド型ペンケース。

【請求項 2】

機構は、本体の側面の内側にペンスタンドを回転させる回転軸を備え、前記回転軸で前記ペンスタンドを回転させて前記ペンスタンドを傾けられるものであることを特徴とする請求項 1 記載のスタンド型ペンケース。

10

【請求項 3】

本体は、ペンスタンドが傾くのを特定の位置で止めるストッパーを備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 4】

ストッパーは、本体の背面の内側とペンスタンドの背面とを接続するベルトであることを特徴とする請求項 3 記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 5】

ペンスタンドは、内部に仕切り部を有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 6】

本体の蓋部は、本体の両側面部に沿って形成される 2 つのスライドファスナーによって開閉されることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

20

【請求項 7】

本体の背面の内側上部に、小物を収納するポケット部を設けたことを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 8】

本体の蓋部の先端に第 1 のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が閉状態で当該第 1 のマグネット部が接触する本体の前面部の位置に第 2 のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が開状態で前記第 1 のマグネット部が接触する本体の背面部の位置に第 3 のマグネット部を内蔵したことを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

30

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、スタンド型ペンケースに係り、特に、開状態にするとペンスタンドを前面に傾けることができるスタンド型ペンケースに関する。

【背景技術】**【0002】****[先行技術の説明]**

従来、スタンド型のペンケースは、立てて使うことができるため、デスク上で場所を取らず、様々の種類のものがある。

40

ただ、スタンド型のペンケースの場合、ペン等が垂直に立っているので、実際ペンを取り出すときに真上から摘み上げる必要があり、取り出し難い。また、スタンド内に複数のペンがある場合に、その中から目的のペンを探すのも難しい。特に、背の低いペンを見つけるのが困難である。

【0003】**[関連技術]**

尚、関連する先行技術としては、実用新案登録第 3 0 7 4 1 0 0 号公報「ペンスタンド」（特許文献 1 ）、実用新案登録第 3 2 1 4 7 7 1 号公報「文具ケース」（特許文献 2 ）、実開昭 6 2 - 0 1 6 3 1 7 号公報「筆記具ケース」（特許文献 3 ）、実開平 0 3 - 1 1 8 0 1 9 号公報「ペンケース」（特許文献 4 ）がある。

50

【 0 0 0 4 】

特許文献 1 には、ペンスタンドにおいて、ケース（基台）内に収められたペンを引き起こして傾斜姿勢にするペン差し体が軸で回転する構成が記載されている。

特許文献 2 には、文具ケースにおいて、ファスナーを開くと蓋体が前面に降りてくる構成が記載されている。

【 0 0 0 5 】

特許文献 2 には、筆記具ケースにおいて、ペンケースの蓋を取り外して、本体の支え部材として収納するペンを傾斜姿勢とする構成が記載されている。

特許文献 2 には、ペンケースにおいて、ペンケースの蓋体を直角に折り曲げて本体の支え部材として収納するペンを傾斜姿勢とする構成が記載されている。

10

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 6 】

【 特許文献 1 】 実用新案登録第 3 0 7 4 1 0 0 号公報

【 特許文献 2 】 実用新案登録第 3 2 1 4 7 7 1 号公報

【 特許文献 3 】 実開昭 6 2 - 0 1 6 3 1 7 号公報

【 特許文献 4 】 実開平 0 3 - 1 1 8 0 1 9 号公報

【 考案の概要 】

【 考案が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 7 】

20

しかしながら、従来のスタンド型ペンケースでは、ペンケースを開状態にすると、ペンスタンドが現れるが、収納されているペン等は垂直方向に立っているので、取り出しにくく、また、目的のペンを探すことが難しいという問題点があった。

【 0 0 0 8 】

尚、特許文献 1 ～ 4 には、ペンケースを開状態にすると、ペンスタンドを斜めに傾けることができる構成が記載されていない。

【 0 0 0 9 】

本考案は上記実状に鑑みて為されたもので、ペンケースを開状態にすると、ペンスタンドを傾けることができ、ペンスタンドの開口部が使用者に向くことになるため、ペン等を見つけるのが容易になり、収納するペン等を斜めから簡単に取り出すことができるスタンド型ペンケースを提供することを目的とする。

30

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 1 0 】

上記従来例の問題点を解決するための本考案は、スタンド型ペンケースであって、蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、ペンスタンドが、蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾けられる機構を備えることを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、機構が、本体の側面の内側にペンスタンドを回転させる回転軸を備え、回転軸でペンスタンドを回転させてペンスタンドを傾けられるものであることを特徴とする。

40

【 0 0 1 2 】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、本体が、ペンスタンドが傾くのを特定の位置で止めるストッパーを備えることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、ストッパーが、本体の背面の内側とペンスタンドの背面とを接続するベルトであることを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、ペンスタンドが、内部に仕切り部を有することを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

50

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、本体の蓋部が、本体の両側面部に沿って形成される２つのスライドファスナーによって開閉されることを特徴とする。

【００１６】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、本体の背面の内側上部に、小物を収納するポケット部を設けたことを特徴とする。

【００１７】

本考案は、上記スタンド型ペンケースにおいて、本体の蓋部の先端に第１のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が閉状態で当該第１のマグネット部が接触する本体の前面部の位置に第２のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が開状態で前記第１のマグネット部が接触する本体の背面部の位置に第３のマグネット部を内蔵したことを特徴とする。

10

【考案の効果】

【００１８】

本考案によれば、蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、ペンスタンドが、蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾けられる機構を備えるスタンド型ペンケースとしているので、ペンスタンドを傾けて、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから容易に取り出すことができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】本ペンケースの正面図である。

20

【図２】本ペンケースの背面図である。

【図３】本ペンケースの左側面図である。

【図４】本ペンケースの底面図である。

【図５】本ペンケースの平面図である。

【図６】本ペンケースの蓋部を開いた状態の左側面図である。

【図７】本ペンケースの使用例を示す説明図である。

【考案を実施するための形態】

【００２０】

本考案の実施の形態について図面を参照しながら説明する。

〔実施の形態の概要〕

30

本考案の実施の形態に係るスタンド型ペンケース（本ペンケース）は、本体の内部にペンを収納し、蓋部を開状態にすると、ペンスタンドが、垂直に立っている状態から前面に向けて斜めに傾く機構を備えるものとしているので、ペンスタンドを傾けて、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから容易に取り出すことができるものである。

【００２１】

〔本ペンケース：図１～６〕

本ペンケースについて図１～６を参照しながら説明する。図１は、本ペンケースの正面図であり、図２は、本ペンケースの背面図であり、図３は、本ペンケースの左側面図であり、図４は、本ペンケースの底面図であり、図５は、本ペンケースの平面図であり、図６は、本ペンケースの蓋部を開いた状態の左側面図である。尚、図６においては、ペンスタンドの状況が分かるように内部構成を示している。

40

本ペンケースは、図１～６に示すように、基本的には、本体１と、ペンスタンド２とから構成されている。

【００２２】

〔本ペンケースの各部〕

次に、本ペンケースの各部について具体的に説明する。

〔本体１〕

本体１は、蓋部１１と、背面部１２と、底面部１３と、左側面部１４と、右側面部１５と、前面部１７とを備えている。

50

そして、本体 1 は、これらの面により中空の四角柱の形状となっている。但し、左側面部 1 4 と右側面部 1 5 の上部角部の正面側を、角を丸めた形状としている。これは蓋部 1 1 の開閉を容易にするための形状である。

【 0 0 2 3 】

[蓋部 1 1]

蓋部 1 1 は、図 1 , 5 に示すように、本体 1 の正面（前面）と平面（上面）を覆うように形成され、左側面部 1 4 と右側面部 1 5 の端部に沿って設けられた 2 つのスライドファスナー（ダブルファスナー）1 6 a , 1 6 b によって開閉を行う。

また、蓋部 1 1 の先端には、マグネット（第 1 のマグネット部）1 1 a が内蔵されており、後述するように、蓋部 1 1 の開閉を固定するために使用されている。

10

【 0 0 2 4 】

尚、スライドファスナー 1 6 a , 1 6 b のスライダーが正面下側にある時は、蓋部 1 1 は閉状態で、スライダーが上面の背面部 1 2 側にある時は、蓋部 1 1 は開状態である。

また、スライダーの穴には引手カバー 1 9 が取り付けられており、2 つのスライダーを連結している。この引手カバー 1 9 を操作することでダブルファスナーを同時に動かすことができる。

【 0 0 2 5 】

[背面部 1 2]

背面部 1 2 は、図 2 に示すように、蓋部 1 1 、底面部 1 3 、左側面部 1 4 及び右側面部 1 5 の一端に接続している。

20

また、背面部 1 2 の底面部 1 3 側の端部には、マグネット部（請求項における第 3 のマグネット部）が内蔵されており、蓋部 1 1 が背面部 1 2 側に折り返されると、蓋部 1 1 の先端に内蔵した第 1 のマグネット部 1 1 a が当該第 3 のマグネット部に密着して固定される。尚、第 3 のマグネット部は、鉄板の小片でもよい。

尚、背面部 1 2 と蓋部 1 1 との境には、持ち手となるループ 1 8 が形成されている。

【 0 0 2 6 】

[底面部 1 3]

底面部 1 3 は、図 4 に示すように、背面部 1 2 、左側面部 1 4 、右側面部 1 5 及び前面部 1 7 の一端に接続している。

【 0 0 2 7 】

30

[左側面部 1 4 , 右側面部 1 5]

左側面部 1 4 は、図 3 に示すように、右上の角を丸めた形状となっており、また、右下に後述する回転軸 2 2 が形成されている。

右側面部 1 5 も、左側面部 1 4 と同様な形状であるが、左上の角を丸め、左下に回転軸 2 2 が形成されている。

【 0 0 2 8 】

[前面部 1 7]

前面部 1 7 は、図 1 に示すように、正面の下側に部分的に形成されている。

そして、蓋部 1 1 の先端で、第 1 のマグネット部 1 1 a が内蔵する部分が接触する前面部 1 7 の位置には、マグネット部（請求項における第 2 のマグネット部）が埋め込まれており、蓋部 1 1 の先端が前面部 1 7 に接触すると、第 1 のマグネット部 1 1 a と第 2 のマグネット部により密着して固定されるようになっている。尚、第 2 のマグネット部は、鉄板の小片でもよい。

40

【 0 0 2 9 】

[ペンスタンド 2]

次に、ペンスタンド 2 について具体的に説明する。

ペンスタンド 2 は、図 6 に示すように、スタンド型ペンケースの本体 1 内に収納可能な大きさのサイズであり、スタンド本体 2 1 と、回転軸 2 2 と、仕切り部 2 3 と、ストッパーベルト 2 4 とを備えている。

【 0 0 3 0 】

50

〔スタンド本体 2 1〕

スタンド本体 2 1 は、正面、背面、底面、左右側面を備え、上面を開口し、正面と背面の底面に接する部分は角を丸くした形状となっている。角を丸みのある形状とすることで、スタンド本体 2 1 を回転しやすくするものである。上面の開口した部分を開口部と呼ぶ。

その丸みは、約 R（半径）15.0 mm である。

尚、丸みがあるのは、スタンド本体 2 1 の前面から底面、底面から背面にかけてであり、側面は丸みのない平面となっている。側面を平面とすることで、ペン等が底面の中央に寄るのを防止して、収容面積を広くできる。

【0031】

10

〔回転軸 2 2〕

回転軸 2 2 は、スタンド本体 2 1 の側面において、下側で前面寄りに設けられており、左右側面に形成されている。

回転軸 2 2 の位置をスタンド本体 2 1 の側面で下側の前面寄りとすることで、テコの原理からスタンド本体 2 1 を引き出しやすく、押し込みやすいものとしている。

【0032】

この回転軸 2 2 は、本体 1 の左側面部 1 4 と右側面部 1 5 を貫通して設けられる。回転軸 2 2 は、スタンド本体 2 1 内を貫通して形成してもよいが、ペン等の収納に邪魔になるため、スタンド本体 2 1 の側面と本体 1 の側面部とを接続するものとしている。

そして、スタンド本体 2 1 は、当該回転軸 2 2 を中心に回転可能であり、スタンド本体 2 1 の上部を正面（前面）に引くと、垂直に立っている状態から前面に傾くよう動作するものである。

20

【0033】

〔仕切り部 2 3〕

仕切り部 2 3 は、スタンド本体 2 1 内を仕切るもので、スタンド本体 2 1 の前面に平行に仕切るようにする方が、スタンド本体 2 1 を傾けたときに、筆記具等を取り出しやすくできる。

仕切り部 2 3 は、一つ設けているが、前面に平行に 2 以上設けてもよい。

また、スタンド本体 2 1 内に、前面に直交する（側面に平行となる）仕切り部を設けて、筆記具等を細かく整理できるようにしてもよい。

30

尚、仕切り部 2 3 は、予め固定とはせず、仕切りパーツの樹脂版で、後から中にセットする仕様としてもよい。

【0034】

〔ストッパーベルト 2 4〕

ストッパーベルト 2 4 は、一端が本体 1 の背面部 1 2 の内側面に接続されて固定され、他端がスタンド本体 2 1 の背面上部に接続されて固定されている。図 6 では、他端はスタンド本体 2 1 の開口部で背面の上端に接続している。

このストッパーベルト 2 4 は、回転軸 2 2 を中心にスタンド本体 2 1 が傾くのを特定の角度で停止させるものである。本ペンケースでは、垂直から約 30.0° 傾く（開く）ようにストッパーベルト 2 4 の長さ、取り付け位置を調整している。

40

【0035】

〔ポケット部 2 5〕

また、図 6 に示すように、本体 1 の背面部 1 2 の内側で上部に消しゴム等の小物を収納するポケット部 2 5 を設けている。

ポケット部 2 5 は、ストッパーベルト 2 4 が取り付けられた位置より上側に設けられるもので、小物を挿入する開口部は上側を向いている。この位置であれば、スタンド本体 2 1 の動作に影響を及ぼすことがない。更に、本体 1 を立てた時に、蓋部 1 1 の真下にポケット部 2 5 が位置することになるため、蓋部 1 1 を閉じればポケット部 2 5 に収納した小物が飛び出してしまうことがない。

【0036】

50

[本ペンケースの使用方法：図 7]

次に、本ペンケースの使用方法について図 7 を参照しながら説明する。図 7 は、本ペンケースの使用例を示す説明図である。

まず、本ペンケースに、筆記具等がスタンド本体 2 1 内に収納されて、蓋部 1 1 が閉じられた状態とする。

図 7 に示すように、本ペンケースを使用する場合、引手カバー 1 9 を持って、スライドファスナー 1 6 a , 1 6 b のスライダーを底面部 1 3 側から上面に向けて引き上げて、蓋部 1 1 を開状態にする。

【 0 0 3 7 】

スライドファスナー 1 6 a , 1 6 b のスライダーを上面の背面部 1 2 側まで移動させ、蓋部 1 1 を背面部 1 2 側に折り返すと、蓋部 1 1 の第 1 のマグネット部 1 1 a の作用により背面部 1 2 の埋め込まれた第 3 のマグネット部に接着し、蓋部 1 1 が安定して固定される。

【 0 0 3 8 】

次に、本体 1 内のスタンド本体 2 1 の開口部を持って前面（正面）側に引き出すと、スタンド本体 2 1 が回転軸 2 2 を中心に回転し、垂直に立っている状態から前面に傾くようにして出てくる。

但し、ストッパーベルト 2 4 が引っ張られた状態になって、スタンド本体 2 1 の傾きを停止させる。垂直方向から約 3 0 ° 傾くよう設計されている。

【 0 0 3 9 】

スタンド本体 2 1 内は、仕切り部 2 3 で仕切られているので、図 7 に示すように、筆記具等が分類されて分けられた状態となり、スタンド本体 2 1 が傾いて開口部が手前（前面）側の斜めに向いているので、筆記具等を取り出しやすい。

【 0 0 4 0 】

筆記具等の使用後は、筆記具等をスタンド本体 2 1 内に収納する。その場合、筆記具等は、仕切り部 2 3 によって分類して収納する。

そして、スタンド本体 2 1 を本体 1 内に押し込むと、回転軸 2 2 を中心にスタンド本体 2 1 が回転（引き出した時とは反対方向に回転）し、ストッパーベルト 2 4 が背面部 1 2 の内側で折り畳まれて、スタンド本体 2 1 が垂直に立っている状態となる。

【 0 0 4 1 】

蓋部 1 1 を背面部 1 2 から引き離し、本体 1 の正面に折り返す。そして、引手カバー 1 9 を持ってスライドファスナー 1 6 a , 1 6 b のスライダーを正面下側まで移動させて蓋部 1 1 を閉じる。

蓋部 1 1 の先端に内蔵した第 1 のマグネット部 1 1 a が前面部 1 7 に内蔵された第 2 のマグネット部に接着し、蓋部 1 1 が完全に閉じられる。

このようにして、本ペンケースは使用される。

【 0 0 4 2 】

[実施の形態の効果]

本ペンケースによれば、本体 1 の内部にペン等を収納するペンスタンド 2 を備え、蓋部 1 1 を開状態にすると、ペンスタンド 2 が、垂直に立っている状態から前面に向けて斜めに傾く機構を備えるものとしているので、筆記具等を使用する場合は、蓋部 1 1 を開状態にし、ペンスタンド 2 を手前側に傾けて、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから容易に取り出すことができる効果がある。

尚、上述のペンスタンド 2 が傾く機構は一例であり、本考案の技術的思想は、種々の傾く機構を含むものである。

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 4 3 】

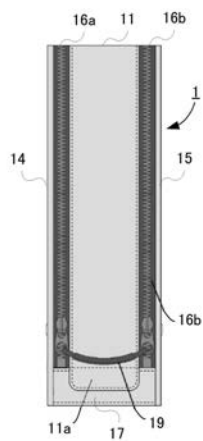
本考案は、ペンケースを開状態にすると、ペンスタンドを傾けることができ、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから簡単に取り出すことができるスタンド型ペンケースに適している。

【符号の説明】

【0044】

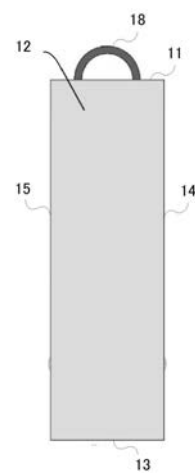
1 ... 本体、 2 ... ペンスタンド、 11 ... 蓋部、 11a ... 第1のマグネット、 12 ... 背面部、 13 ... 底面部、 14 ... 左側面部、 15 ... 右側面部、 16a, 16b ... スライドファスナー、 17 ... 前面部、 18 ... ループ、 19 ... 引手カバー、 21 ... スタンド本体、 22 ... 回転軸、 23 ... 仕切り部、 24 ... ストッパーベルト、 25 ... ポケット部

【図1】



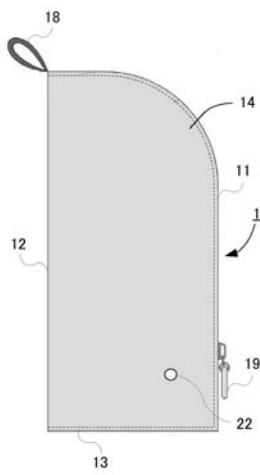
【図1】本ペンケースの正面図

【図2】



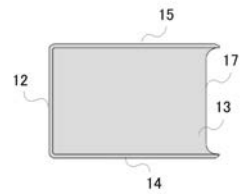
【図2】本ペンケースの背面図

【図 3】



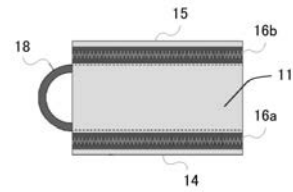
【図3】 本ペンケースの左側面図

【図 4】



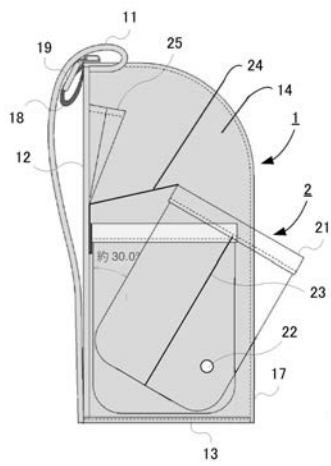
【図4】 本ペンケースの底面図

【図 5】



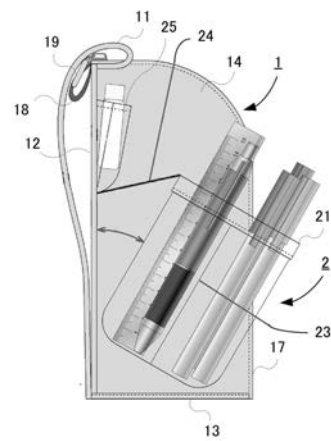
【図5】 本ペンケースの平面図

【図 6】



【図6】 本ペンケースの蓋部を開いた状態の左側面図

【図 7】



【図7】 本ペンケースの使用例を示す説明図

【手続補正書】

【提出日】令和2年8月4日(2020.8.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

スタンド型ペンケースであって、

蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、

前記ペンスタンドが、前記本体の側面の内側に設けられた支点を中心に回転する機構を備え、前記蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾くものであることを特徴とするスタンド型ペンケース。

【請求項 2】

機構は、本体の側面の内側にペンスタンドを回転させる回転軸を備え、前記回転軸で前記ペンスタンドを回転させて前記ペンスタンドを傾けられるものであることを特徴とする請求項 1 記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 3】

本体は、ペンスタンドが傾くのを特定の位置で止めるストッパーを備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 4】

ストッパーは、本体の背面の内側とペンスタンドの背面とを接続するベルトであることを特徴とする請求項 3 記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 5】

ペンスタンドは、内部に仕切り部を有することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 6】

本体の蓋部は、本体の両側面部に沿って形成される 2 つのスライドファスナーによって開閉されることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 7】

本体の背面の内側上部に、小物を収納するポケット部を設けたことを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【請求項 8】

本体の蓋部の先端に第 1 のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が閉状態で当該第 1 のマグネット部が接触する本体の前面部の位置に第 2 のマグネット部を内蔵し、前記蓋部が開状態で前記第 1 のマグネット部が接触する本体の背面部の位置に第 3 のマグネット部を内蔵したことを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか記載のスタンド型ペンケース。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

上記従来例の問題点を解決するための本考案は、スタンド型ペンケースであって、蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、ペンスタンドが、本体の側面の内側に設けられた支点を中心に回転する機構を備え、蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾くものであることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

本考案によれば、蓋部を備える本体の内部にペンスタンドを収納し、ペンスタンドが、本体の側面の内側に設けられた支点を中心に回転する機構を備え、蓋部を開状態にすると、垂直に立っている状態から斜めに傾くスタンド型ペンケースとしているので、ペンスタンドを傾けて、収納するペン等の中から必要なペンを容易に見つけることができ、見つけたペンを斜めから容易に取り出すことができる効果がある。